



クリーン農業開発プロジェクト（CADP）

実施国：ラオス 実施期間 2017年11月～2022年11月

背景

- 「クリーン農業」の推進は、ラオスの重要な農業政策の1つです。
- ラオスでは、周辺国に比べ、伝統的に農薬等の化学品の投入が少なく、このことが、安全で環境にやさしい農産物を供給する観点からも、他国に比べて有利な条件となり得ます。

課題

- クリーン農産物を販売する場所やその機会の提供は依然として限定的です。
- 信頼できるクリーン農業の生産者の数が十分ではありません。
- その一方で、食品安全に対する消費者の関心や農薬等の化学品に関する消費者の懸念は、年々増加しつつあります。

このため、ラオスでは、クリーン農業を促進することが必要です。また、そうした活動を通じ、生産者や生産者グループがクリーン農産物に対する市場ニーズに応えることができ、また、彼らの販売機会を拡大することにつながります。



4つのパイロット県



プロジェクトの対象

- プロジェクトの種類: ODA（政府開発援助を通じた、JICAによる技術協力プロジェクト）
- 目的: パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農産物の促進
- このプロジェクトでは、「**クリーン農業**」を「**有機農業**」と「**GAP（農業生産工程管理）**」と定義しますが、当面、「**有機農業**」を対象とします。また品目については、主に**野菜・果物**を対象とします。
- 「**農家中心**」及び「**市場指向**」を基本概念とします。この概念に基づき、官民が連携して、市場の拡大のために必要な支援を行うこととします。

実施内容

- このプロジェクトでは、以下の活動を行っています。
 - 有機農業に関する研修（一般原則及び有機農業規格、内部監査システム（ICS）、土壌管理及び病害虫管理等）
 - マーケティング、広報
- プロジェクトの活動を通じ、生産者及び生産者グループが、市場ニーズに対応してクリーン農産物の生産・販売する能力が強化されます。
- また、カウンターパート機関（ラオス農林省農業局(DOA)、県農林事務所(PAFO)及び郡農林事務所(DAFO)）の機能も強化されます。
- 「マッチメイキング活動」は、関係者の信頼の下に供給側と需要側のかけ橋を構築する活動として重要です。



ラオス農林省農業局（DOA）



（独）国際協力機構（JICA）